

は じ め に

当研究所では「県民の安全確保と豊かな環境確保のための調査研究機能の発揮」を所属のミッション（使命）として業務に取り組んでいます。

まず、最優先で取り組んでいる衛生・環境分野における危機管理に関する状況を見ますと、国内では本年1月、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の国内初となる患者発生確認がされて以降、西日本の12県で患者報告があり、中国四国地域においては鳥取県を除く全ての県で患者発生が確認されています。国外では、今のところ地域流行にとどまっていると見られる中東呼吸器症候群（MERS）の発生がアラビア半島を中心に断続的に発生しています。

県内では、6年ぶりとなる結核集団感染の確認のほか、食中毒の発生は言うに及ばず、ここ数年例年のように起きている放置トランスからのPCB含有油漏洩に伴う河川、土壌の汚染事故等、衛生・環境の両分野における健康危機管理のための試験検査対応事案は減ることがなく、備えを怠ることが出来ません。

一方、環境の保全・再生の活用に資する研究・調査においては、廃ガラスや一般廃棄物焼却灰・溶融飛灰の無害化、リサイクル技術の開発・研究を進める中で、パソコンなどの電子基板から複数のレアメタル、レアアースを分離するリサイクル技術について特許出願を行うことが出来ました。また、持続可能な地下水利用のための研究プロジェクト、健全な自然生態系を確保するための湖沼モニタリングなども継続的に実施しています。

本年報は、平成24年度に当研究所で実施した調査研究や業務の成果をとりまとめたものです。これらについては、県のホームページや出前講座、大学や他の試験研究機関との共同シンポジウム等を通じて、広く県民の皆様提供していきたいと考えております。

県民の皆様方のニーズを的確に把握し、応えられる研究により一層努力していかねばならないと考えておりますので、内容などについて皆様からの忌憚のない御意見をいただければ幸いに存じます。

平成25年12月

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

所長 長谷岡 淳一